

生きがいをもとめて

リポーター 工藤五郎 (西大館町)



四年度最初の広報市民リポーターだより。今回は、高齢者のいきがいにについて老人バレーボールをもとに取材した工藤リポーター、創立三十五周年を迎えた青年会議所の活動状況などをまとめた野口リポーター、お二人のリポートをご紹介します。

市民リポーターとして、一番初めに考えたテーマは「高齢化社会」についてでした。これからは一年ごとにお年寄りが多くな

ります。人生をどういうふうにして楽しく、健康に過ごすかは大きな課題です。私は常々健康こそが必須要件だろうと思っ

ていますので、今回は老人バレーボールで健康づくりを

している皆さんを取材しました。

下川沿公民館で毎週水曜日に
行われているこのバレーボール
七、八年前からやっているとの
ことで、実は私も誘われるまま
に参加して二年目になるのです
が、改めて、部長の谷川原勝之
さんからお話を伺ってみることに
しました。



左が工藤リポーター (下川沿公民館で)

はどんな点でしょう？

人それぞれに感じることでし
ようから、よく分かりませんが、
楽しいから続いているんでし
ょうね。プレーそのものに楽しさを
覚える人もいますし、体を
動かすこと、まだこんなに動
かせるといふ自信がついた
人もいます。

▽皆さんのプレーぶりはいかが
ですか？

回を重ねるうちに段々上手に
なってきましたよ。バレーには
機敏性が必要ですが、それも訓

練されて発達してきているよう
です。もちろん、六十歳過ぎに
始めた人たちですから、若い人
のようにはいきませんが、いざ
という時に自分の身を守ること
にもつながりますので、大変い
い運動だと思っています。

▽試合にも出場していますね。

私たちの健康づくりが主で
すから、勝敗は特に考えません。
しかし、負けるとグチをこぼす
人もいますから、年寄りの心意

時代の水先案内人

リポーター 野口和哉 (幸町)

今年で創立三十五周年を迎え
た「大館青年会議所」。地域のオ
ピニオンリーダーとして、大館
を愛し、素晴らしい大館を創造
しようと「若い力」が結集した
団体です。三十五代理事長の小
笠原渉さんに伺いました。

ワンだふる イベント

お話を伺うと、知っているイ
ベントがたくさんありました。

例えば、夏の一大イベント大文
字まつりでの「ぶっかきみこし」、
夏まつりには、欠かせないものに
なっています。「長木川クリー
ンアップ」もリーダーシップを
とっている活動の一つ。このほ
か、国技・相撲を通して小学生

気も捨てたものではないです。
それに、ゲーム中に失敗して
も、そこはこれまで六十数年を
生きてきた人たちですから、お
互いおもいやりの気持ちをもっ
て見てあげられるようです。

草木は毎年芽を吹き、花を咲
かせます。高齢化とはいえ、人
それぞれが生き方を見定め、い
つでも芽吹くエネルギーを秘め
ている、そんなたくましさを感じ
られます。

ワンだふる シンポジウム

私は、去る五月十七日に開催
された三十五周年記念式典に出
席し、まちづくりについてのシ
ンポジウムに参加してきました。

シンポジウムでのパネリスト
は、渋谷のハチ公像をヒントに
「ハチ公ショップ・渋谷のしっ
ぽ」をオープンさせた東急百貨



右が野口リポーター (青年会議所で)

店東横店長の風間篤取締役、明
治時代から北鹿地方で鉱山事業
を進める同和鉱業の三浦正義企
画部副部長、県北地区のホップ
を使用するキリンビールの真柳
亮開発担当チーフプロデューサ
ーの三人でした。

風間氏は「東京でも若手社員
の定着と商品開発が課題。周り
の変化に早くから危機感を持ち、
対処することが大切」と店舗運
営のポイントを披露。三浦氏は
「大館に何か一つ大きなシンボ
ルが欲しいと感じていた」とホ
ワイトガーデン構想を評価し、
真柳氏も「人の心から生まれた
プランが一番長続きする。構想
からは「手作り」「気持ち」が感じ
られる」と述べていました。
活発な意見が交わされる会場
において、「若い力」の結集である
青年会議所は、まさに時代の水
先案内人でもあるような、そんな
思いにかられていました。